

2024.01.01 Kyoni Communication Paper NEW WAVE

プロフェッショナル購買 & 生産技術パートナー **kyoni**



2024年の取組み／ 社会課題に対する取組み



代表取締役社長

井口宗久

皆様、あけましておめでとうございます。2023年はようやくコロナ禍が終了し、企業活動も日常の暮らしも通常に戻りましたが、2024年は皆様にとって更に素晴らしい年になることを心よりお祈り申し上げます。

さて、本号ではまず前期(2023年度)の決算と今期の2024年度の取組みについてご報告いたします。

前期2023年9月期決算

- ・売上高：47億69百万円(前年比93%)
- ・営業利益：75百万(前年比103%)
- ・経常利益：1億27百万(前年比101%)
- ・自己資本比率：56%

前期についてはコロナ禍の終焉を受けて本来は売上を伸長させなければならなかったのですが、設備商材が長納期化し、期中納入が減少したことから、売上は減益、利益以下は横ばいの結果となりました。

重点商品である「中国製品」については元高円安の影響も受けたものの堅調に伸張いたしました。「ロボット」については一般店舗内作業の自動化やEV部品製造装置の自動化の一部など将来有望な案件に携わることができております。

2024年度の計画

2024年度の計画については、増収増益の売上51億、営業利益85百万、経常利益1億38百万といたしました。状況としては中国経済悪化の日本への影響が日に日に増していますが、下記3点の中期計画の骨子をやりぬく一年にすべく活動を進めております。

■中期計画骨子

(1)これまでの投資を結実させる

この数年間で、新拠点や新部隊の設立、海外JVへの参加、M&Aによる会社買収などの様々な投資を行ってき

NewWave 1月号 index

P012024年の取組み/社会課題

P03「中国事業」昨年の振り返りと今年の戦略

P04中国おすすめ商品 北京WDマナノバシリーズ

P05ロボデックス2024出展のお知らせ

P06営業所紹介 北関東営業所

P07私の成功体験 太陽工機CNC立形研削盤

P08不二越新商品「バリレス工具」のご紹介

P09新明和工業「ダブルドラム式乾燥機」のご紹介

P10部門長 新年抱負

P12伊達商会取組状況 新人紹介

たが、とにかくその投資成果を出す。

(2) 専門力の展開を更に進める

「ロボット」、「中国製品」、「要素部品」、「水処理」の専門部署による商品開拓を更に進め、基幹商材の機械工具商材とシナジー効果を生み出す。

(3) EV、新エネルギー関連の取組みを進める

当社の売上の約20%がエンジン車部品加工向け機械工具であり、確実に進展する脱エンジン化への対策として、EV部品の加工や水素関連への部品採用の展開などを進める。

社会課題に対する取組み

～第27回京二会オークマ様講演より～

毎年12月に開催している京二会ですが、今回の基調講演はオークマ株式会社の執行役員技術本部副本部部長の栗山和俊様に「社会課題に対するオークマの取組み」を演題にお話しいただきました。

弊社では多い時には年間売上20%を工作機械が占めるほど大事な商材であることから講演をお願いし、社会課題の中でも特に「人不足」と「脱炭素」についてフォーカスしてお話しいただきましたが、さすがは工作機械のトップメーカーさんであり、課題に対する深い分析と大きな取組みについて大変勉強をさせていただきました。

ご講演要旨

「脱炭素への取組み」について

EUではバッテリーパスポートなどの取組みが進められており、日本の製造業でも協会会社も含めたサプライチェーン全体でのCO₂削減 (scope3) が求められる時代である。

一方で日本では大企業でも加工設備に対する脱炭素の動きは鈍く、中小では多品種少量生産への取組みが最優先で脱炭素化が進んでいない。

そこでオークマでは「green smart machine」と題して「精度の安定と消費エネルギーの削減」を両立させた機種開発などの取組みを進めている。

- 機械の生産性を向上させ、加工時間自体を短くすることで消費エネルギーを抑える
- 自律的に消費電力を抑える高効率な機器の搭載
- 精度を維持しながらも非加工時に周辺機器を積極的に止める機能の開発

人手不足への取組みについて

世界各国で労働人口の割合が低下しており、日本製造業で

は就業者数は過去20年で134万人も減少した。特に34歳以下が106万人も減少している状況である。

これに対して製造業の大企業ではロボットシステムを導入しているが、スキル不足で使いこなせておらず、中小企業はやはり多品種少量生産対応のため自動化に取り組めていない。

オークマでは、人がいない自動化ではそもそも工作機自体に精度の安定性と高い信頼性が必須であり、また、オペレータが簡単に操作できる自動化機器が必要であると考え、以下の取組みを進めている。

- 機械オペレータが簡単に操作可能な自動化(ビルトインロボット、移動式協働ロボ)
- 機内計測校正の自動化(手作業が不要で、かつ時間を1/10に短縮)
- AIを活用してのマシндаウンタイムの短縮、ワーク不良によるロスの削減
- メンテナンス作業時間が大幅に軽減される付帯機器の開発(スラッジレスタンクなど)

弊社でもロボットや他の省人化機器による自動化提案や、省エネ油圧ユニット等の装置のCO₂削減提案は進めています。オークマ様のご講演を受けて、社会課題に対してより深く考察し、様々な取組みを進めていきたいと考えております。



京二会 オークマ株式会社 栗山技術本部副本部部長による講演



京二会第二部懇親会 不二越 確井役員による乾杯のご発声